

昨年度の成果と課題

取り組みにおける成果と課題

- ・作品発表鑑賞会を行ってきたことで、友達の作品の良さに気付く力がついている。また、自分の作品に愛着を持つことができている。しかし、作品発表鑑賞会の時間を長く取ると、児童の意欲が低下してしまうことが課題である。そのため、今年度からは、鑑賞の方法を変え、製作時間も十分に取るようにしていく。
- ・どの児童も生き生きと表現ができ、自信をもてるような題材を設定する工夫をしてきたため、豊かに発想する力がついている。しかし、材料や用具に関する経験不足から、技術が伴わない。そのため、たくさんの材料や、用具を扱う経験を増やしていくことが課題である。

平成28年度の実態の分析

結果の分析

- 「関心・意欲・態度」については、新しい教材や学習・友達の作品に対して関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。学習の準備では個人差が縮まりつつあるがまだ大きい。
- 「発想や構想の工夫」については、豊かに発想する力がついている。しかし、学習のねらいを意識し、作品の構想をしていくことが、今後の課題である。
- 「技能」については、用具を効果的に使うための、身体のコントロールが課題である。
- 「鑑賞の能力」については、相互にコミュニケーションをとりながら鑑賞し合うことが課題である。

実態分析に基づいた授業改善のポイント及び改善策

- より豊かに発想・構想し、それを活かした表現ができる技能を付けさせるようにする。
 - 低：必要な材料を準備し、はさみやのりの使い方など作業のポイントをとらえ、丁寧に指導する。
 - 中：題材・説明を発達段階により合うように工夫し、また、たくさんの材料や用具と出会うことで、児童が自ら進んで発想・表現ができるようにする。また、道具の正しい扱い方を身につけるように、教師が実演して見せたり、全体指導、必要に応じた個別指導をしたりするようにする。
 - 高：学習計画を提示し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。題材・説明を発達段階により合うように工夫し、活動の中にも互いの作品を見合う機会を設けている。発想・構想・考え方が学び合えるようにする。また、既習の材料、用具を、自ら選び、身に付けた技能を生かして、製作できるようにする。
- 全：いろいろな材料、用具に出会うことにより、自分の好きなこと、得意なことを、図画工作の中で見つけられるようにする。
- 豊かな視点をもって鑑賞を楽しみ、視点を自分の作品に生かす意欲をもたせるようにする。
 - 低：友達のよい点に気付くように、鑑賞の機会をもち、互いに伝え合う活動を設定する。
 - 中：友達の作品を見て、意見交流の機会を設ける。また、作品のよさや美しさについて見方・考え方の指導を工夫する。
 - 高：自他の活動や作品についての良い所や感想を伝え合わせる。また、児童相互に制作途中・完成後に作品発表や鑑賞会を設ける。身近な美術作品についても自分の感じ方、考え方を述べられるようにアートカードなどを用いて、鑑賞の仕方を工夫する。
- 全：造形活動に対する興味・関心をもたせるために図工室内での作品紹介、掲示を工夫する。鑑賞の機会をつくるために、校内に作品の展示をする。その際作品の選出・非選出で児童に劣等感をもたせないよう配慮するようにする。鑑賞カード、書籍、アートカードを用いて、発達段階に応じた鑑賞の仕方を工夫し、作品をみるのが楽しいと感じられるようにする。